

あとがき

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 林, 勇二郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39982

あとがき

昭和24年新制大学として設立された金沢大学は、55年の歴史を刻んだ平成16年4月、国立大学法人に移行した。法人化にあたり、本学の活動が「21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識」のもと、大学憲章において、金沢大学を「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と位置づけることを宣言した。

研究においては、本学は、「文系」と「理系」、「基礎」と「応用」などの相違にかかわらず、若手をはじめとする構成員が自主的に研究できる環境を整備し、卓越した知の創造に努め、新たな学術分野の開拓と、技術や新産業の創出等に資することをめざしている。このことは、科学と技術との距離が近接しつつある今日、基礎研究者といえども技術に対して責任をもつとともに、他方で、大学において競争や経営になじまない基礎研究や純粋科学の研究をも堅持する姿勢を表明するものである。

本学は、以上のような考え方にたって、平成16年度から学内競争的資金の公募制度「重点研究経費」を創設した。本書は、平成16・17年度金沢大学重点研究経費に採択された野村真理教授を代表とする研究「地域統合と人的移動の国際比較——ヨーロッパと東アジアの歴史と展望」の総括である。

「東アジアにおける平和、安定および経済的發展を促進することを目的とした対話を行う。」これは第1回東アジア・サミットの宣言である。21世紀の国際社会は、新たな安全保障問題に対応しつつ、その上で経済發展が図られねばならないが、そのための方策の一つがヨーロッパ連合を例とする地域統合である。長年にわたって各国が刻んできた歴史、創造した文化および宗教等の相互理解の構築が、統合の抱える来し方の課題であったとすれば、人的移動は、統合の行く末を占う重要な要素であるともいえる。

地域統合の問題を人的移動の歴史と現状の側面から捉えようとする本研究は、グローバル化のすすむ国際社会が直面する新たな課題を真っ向から掘り下げようとするものである。総合大学である本学において、このような研究

が行われることを喜びとし、今後の発展を期待したい。

2006年1月

金沢大学長 林 勇二郎